

『アミパネル』設計と施工の手引き

◆はじめに

アミパネルは耐力壁および通気層となる面材で、内外壁の下地構成材として使用できます。
(詳しくはカタログをご覧ください)

◆準備

◇必ず用意するもの：高圧コンプレッサー＋釘打機、太めくぎCN75

◇施工する建物躯体のチェック

i 柱～柱間隔 芯々寸法：910mm 柱寸法：105mm×105mm以上 アミパネルかかり代：45mm以上（左右とも）
間柱寸法：30mm×105mm以上 @455

ii 横架材間の距離（1Fは土台上端～梁下端、2F以上は梁上端～梁下端の寸法）

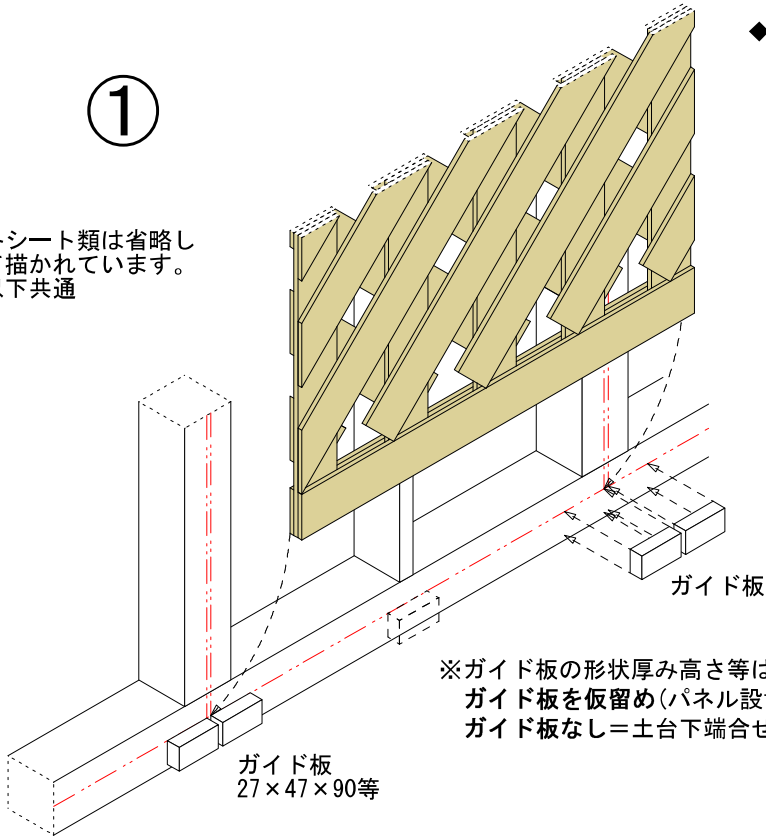
2900タイプ：2800mm、2700タイプ：2600mm、アミパネルかかり代共通：48mm以上（上下とも）

以上を作業の前に必ずご確認ください！

◇別途「補足部材（杉）」断面寸法：27×47・27×74・9×90の3種、ガイド板・パッキンや各種役物として使用できますので、必要に応じご用意下さい。

①

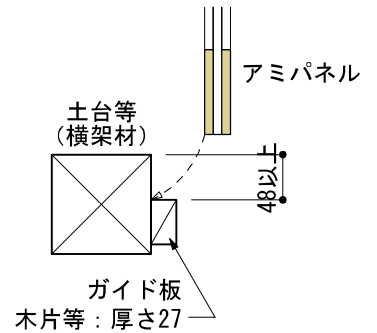
※各シート類は省略して描かれています。
以下共通



◆設置開始

下側の横架材にガイド板を設置しアミパネルを載せる。

ガイド板の厚み9mm以上を横架材全周に設置すると通気が取れませんので、アミパネルの縦板に合せ設置することをお奨めします。



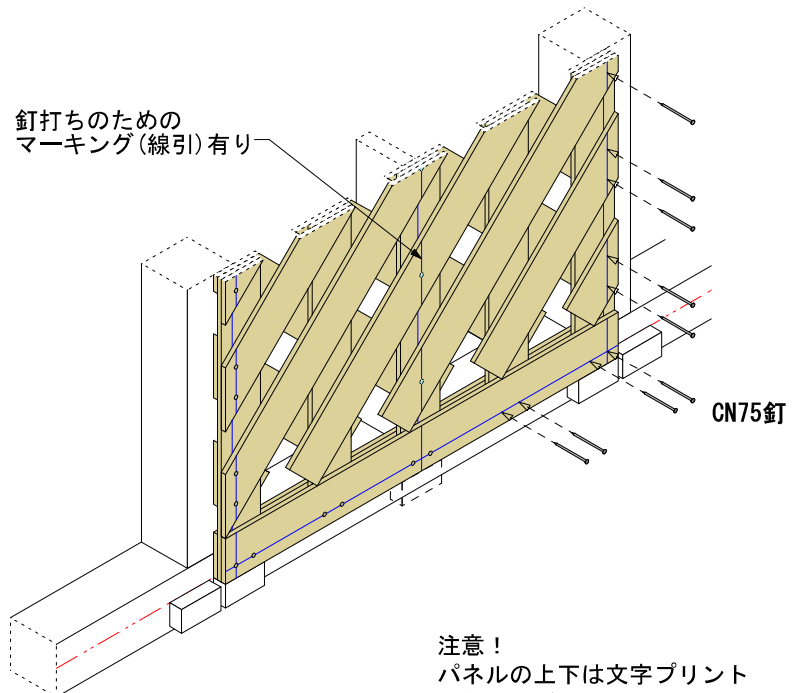
※ガイド板の形状厚み高さ等は水切等納りに応じて調整下さい。
ガイド板を仮留め(パネル設置後撤去)とする場合は厚み・長さは自由です。
ガイド板なし＝土台下端合せ等は位置決めを慎重に行ってください。

②

◆パネル釘打ち固定

柱への掛り代（横位置）を確認し、CN75釘を釘打機にて打ちます。ズれないように数本の釘を打ち、後から規定の本数を打ちます。

釘はパネルのマーキングに合せ打ってください。また設置位置・釘本数の詳細についてはカタログを参照してください。



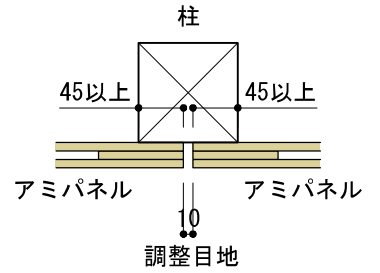
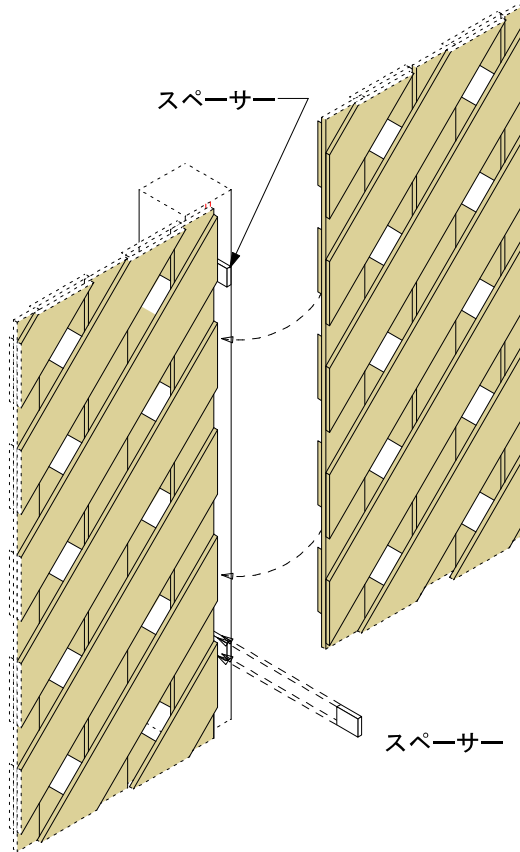
注意！
パネルの上下は文字プリントの有る方が上です。

③

◆隣接パネルの設置

横方向の隣接パネルの位置を決める際、スペーサーで10mmの調整目地を確保します。

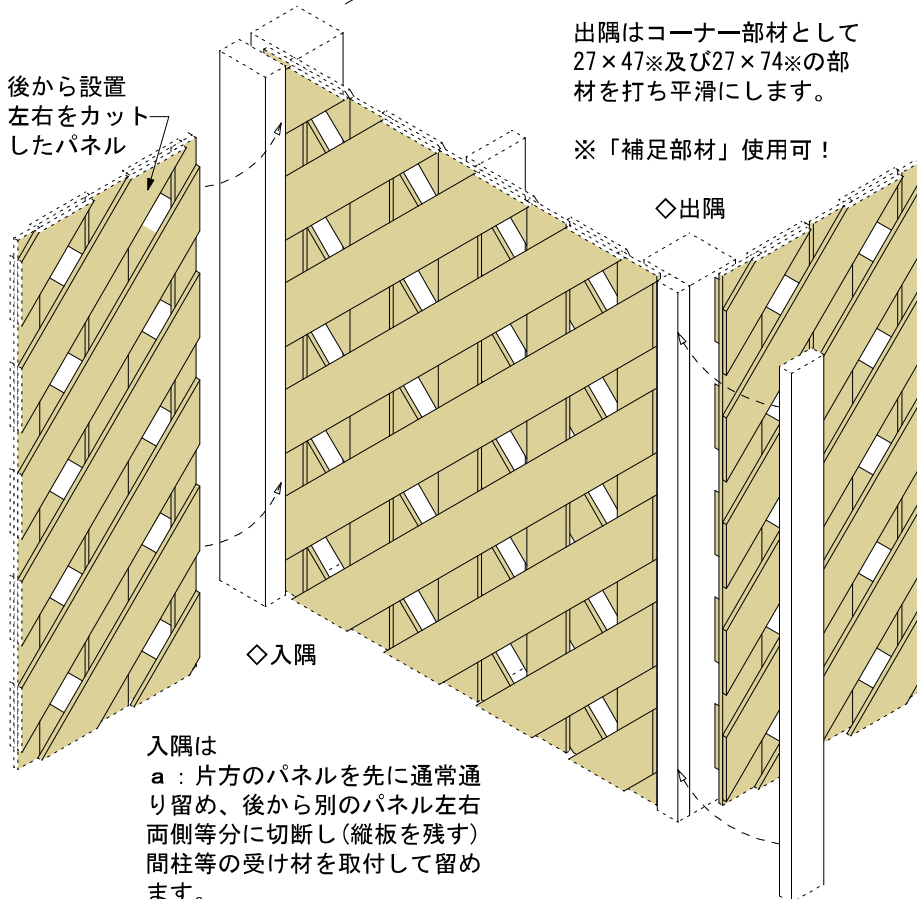
スペーサー（木片等）は現場で用意してください。
※例えば9mm合板や9.5mm石膏ボードなど



④

◆出隅・入隅

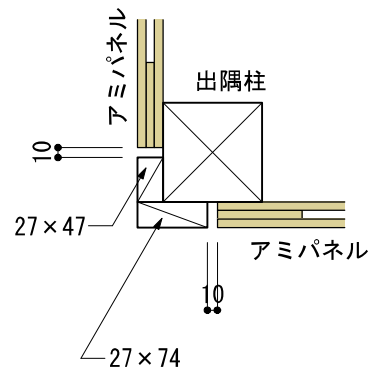
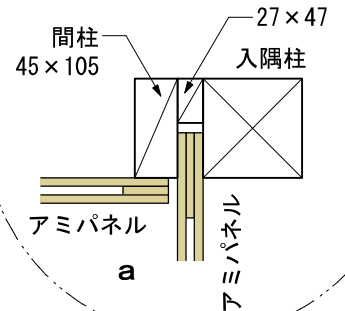
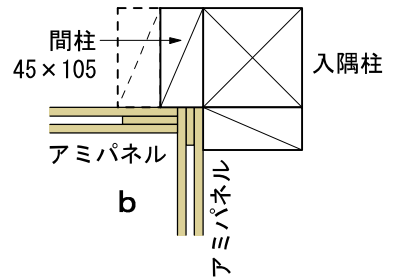
後から設置
左右をカット
したパネル



出隅はコーナー部材として
27×47※及び27×74※の部
材を打ち平滑にします。

※「補足部材」使用可！

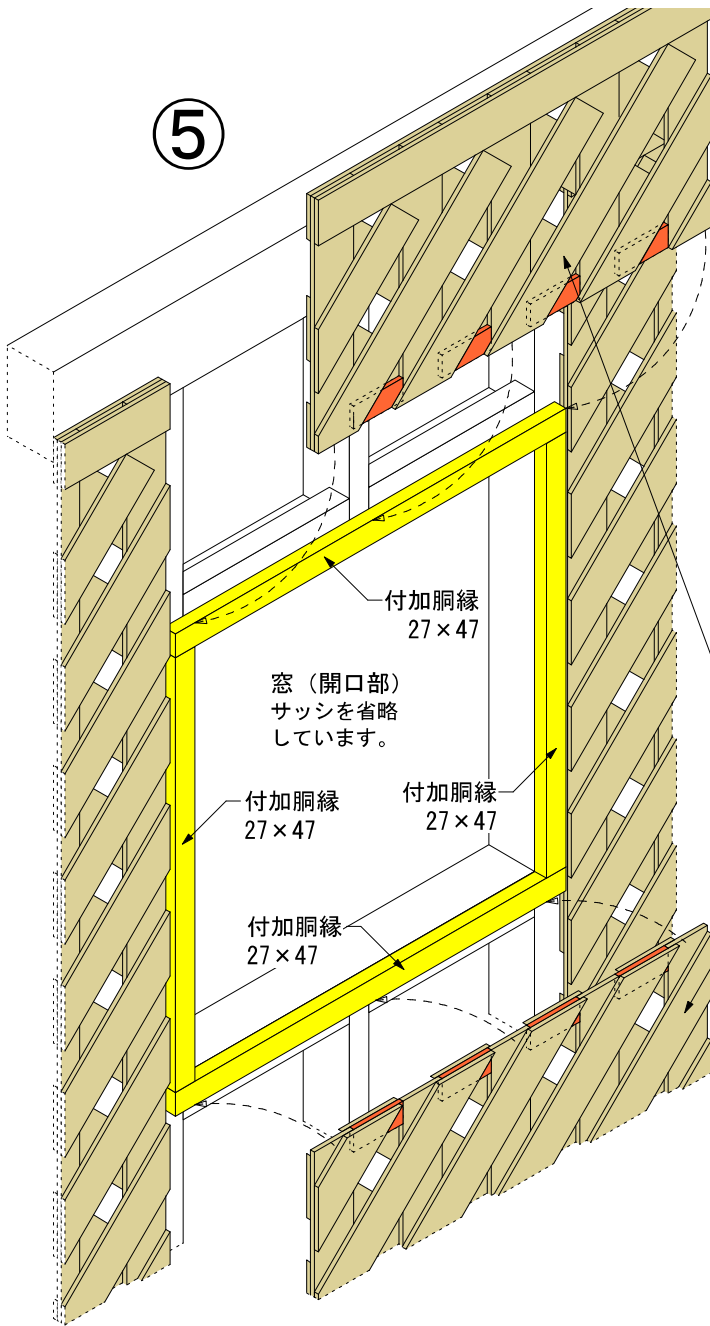
※注意
入隅はどちらのパネルも耐力
壁にはなりません。



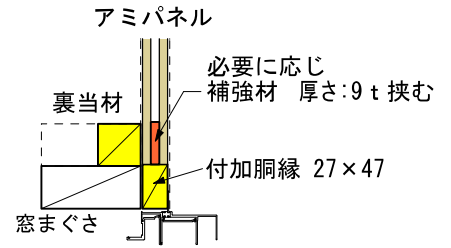
入隅は
a : 片方のパネルを先に通常通り
留め、後から別のパネル左右
両側等分に切断し(縦板を残す)
間柱等の受け材を取付して留め
ます。
b : 両方のパネルとも適当に切
断して入隅に合せ設置します。

◆窓・開口部廻り

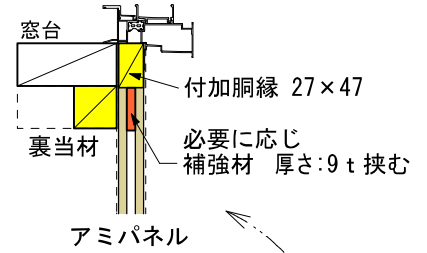
5



《サッシを付加胴縁に取付ける場合》



◆サッシ取付例



パネルを窓・サッシに合わせてカット ※耐力壁にはなりません。

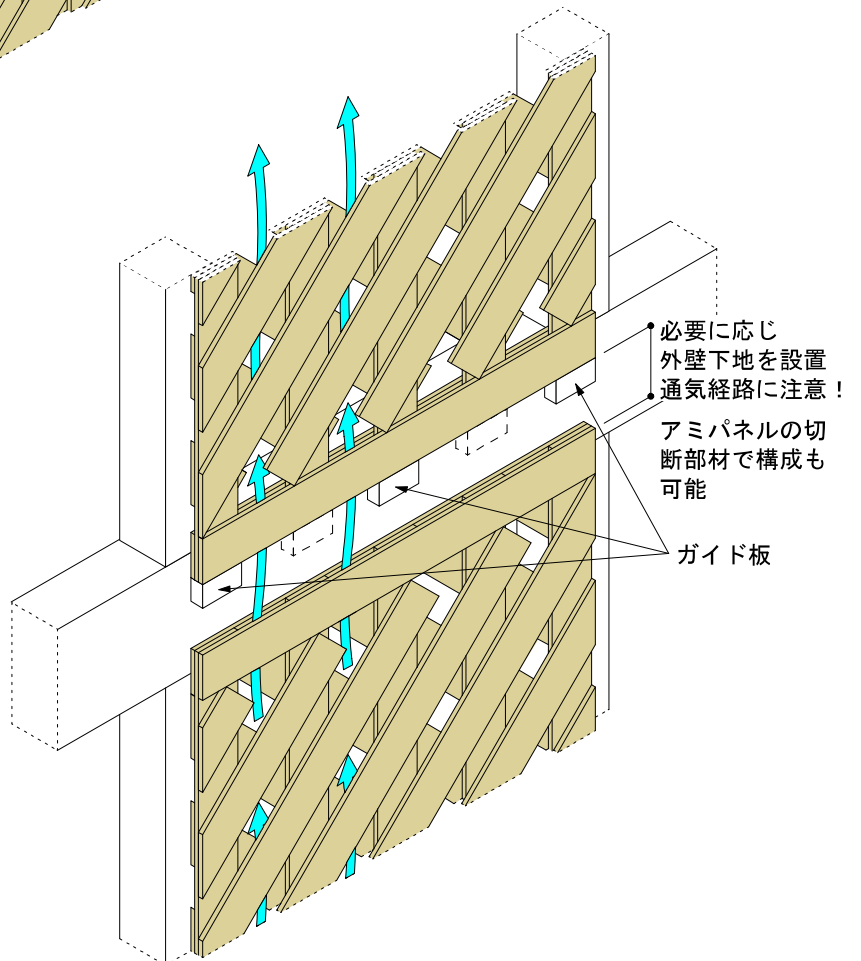
窓(サッシ)の取付方法に合わせて、先付で四方に厚さ27mm材を取り付ける(付加)など適宜下地の調整をしてください。

6

◆上下階のつながり

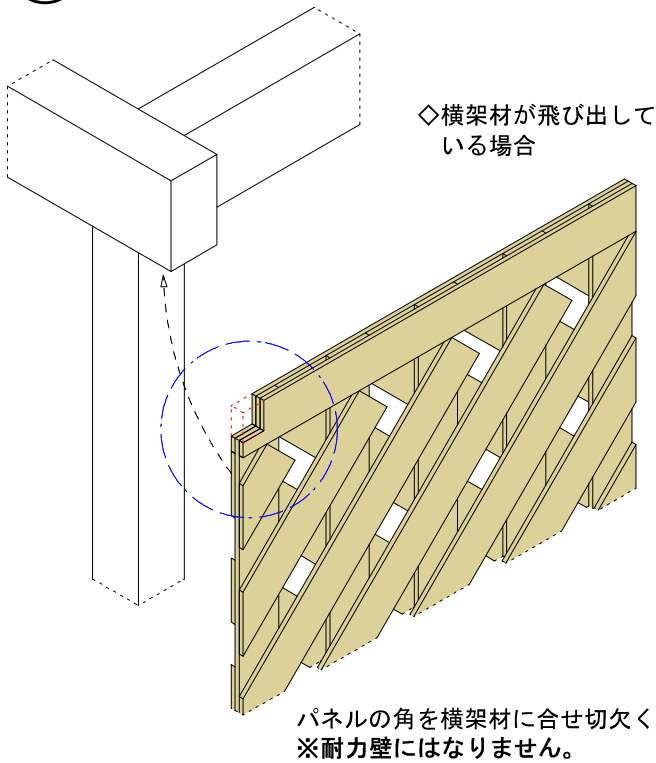
上下階のパネル間が開く場合、必要に応じ外壁下地となるパッキン材(27mm厚)を設置します。この際各々使用する外壁材に対応し、かつ通気を妨げないように注意してください。
※パッキン材は別途の「補足部材」や「アミパネルを切断した部材」等が利用できます。

上下パネルが近接する場合は3mm以上の隙間を設けて設置してください。

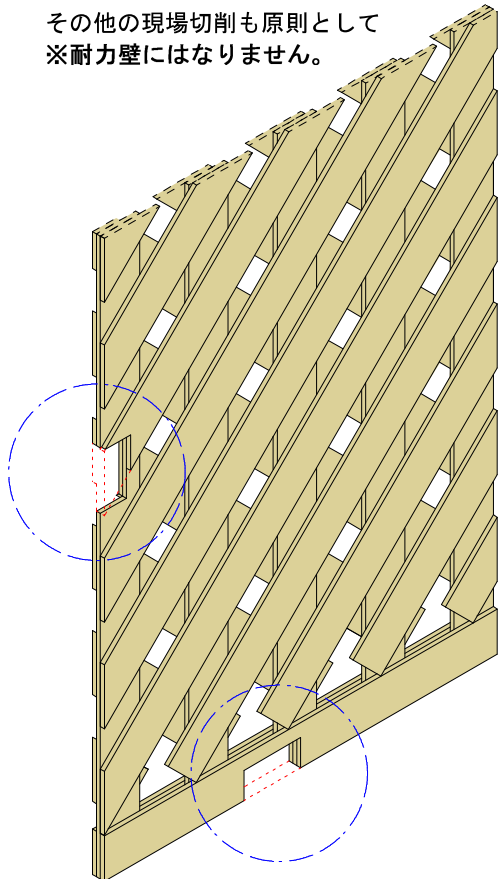


7

◆パネルの切欠き・切断・穴あけなど

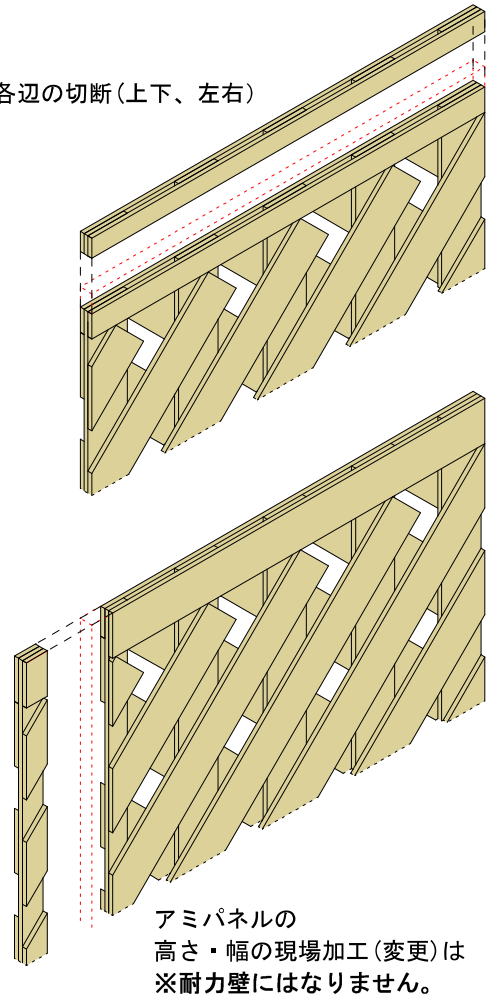


その他の現場切削も原則として
※耐力壁にはなりません。



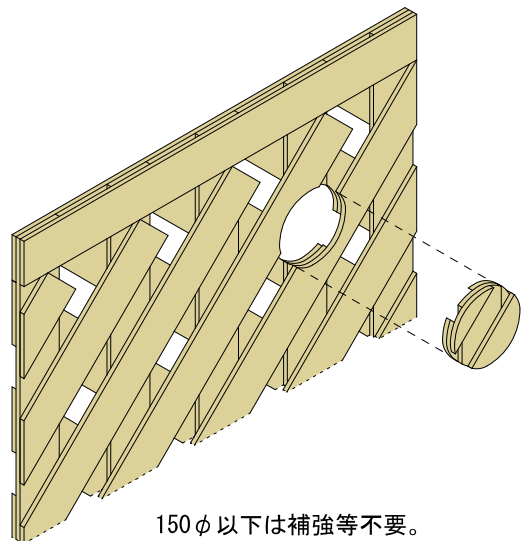
*一部の部分的切欠きについては
ただ今補強方法を検討中です。

◇各辺の切断(上下、左右)

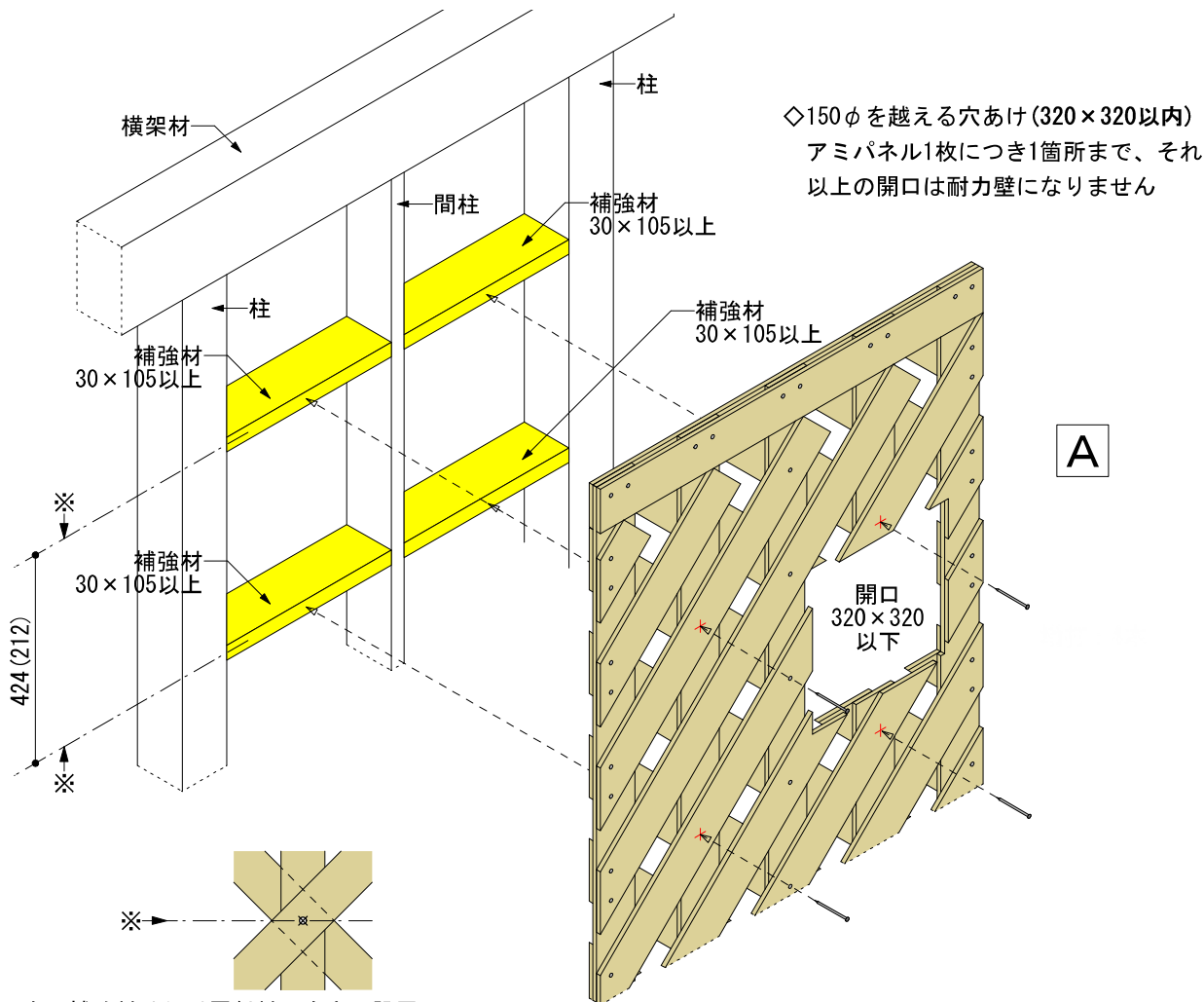


◇設備等の穴あけ

150φ以下の開口は耐力壁として使用して
問題ありません。それ以上大きな開口は
次頁の方法で補強してください。(参考:
国土交通省 技術的助言 第1335号)

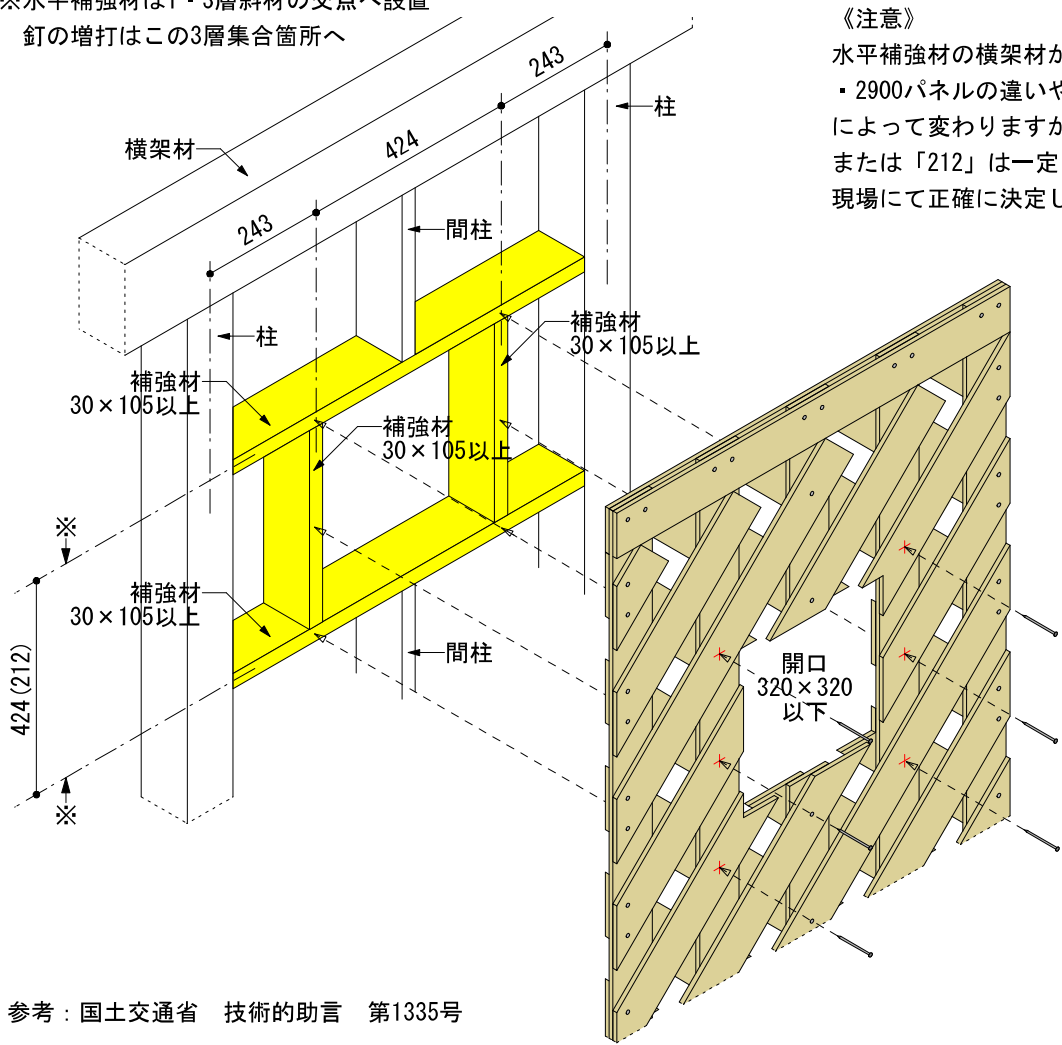


150φ以下は補強等不要。
アミパネル1枚につき1箇所まで。
補強を行う場合は次頁参照。



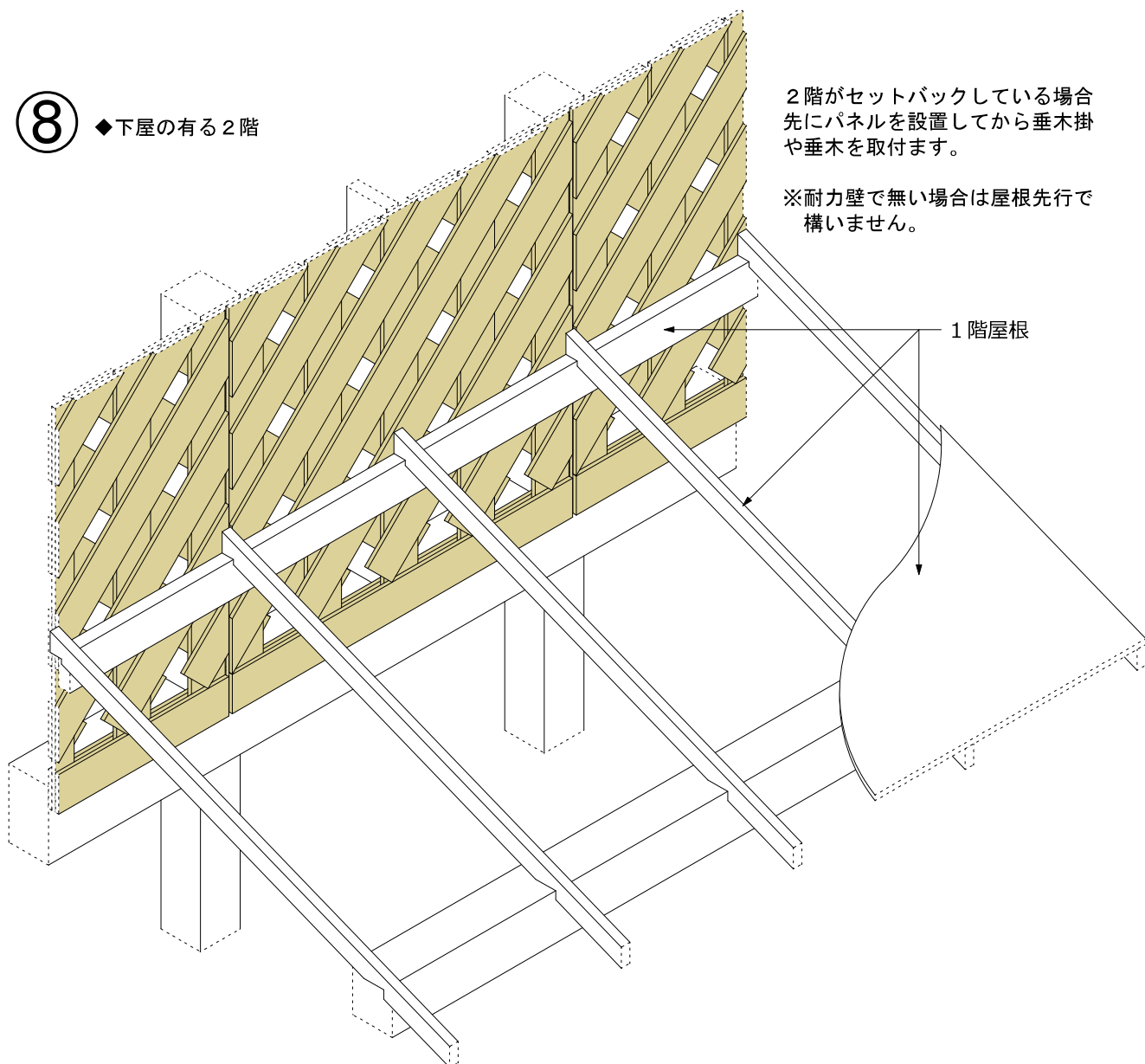
◇150φを越える穴あけ(320×320以内)
アミパネル1枚につき1箇所まで、それ
以上の開口は耐力壁になりません

《注意》
水平補強材の横架材からの位置は2700
・2900パネルの違いやパネル設置高さ
によって変わりますが、間隔「424」
または「212」は一定となります。
現場にて正確に決定してください。



⑧

◆下屋の有る2階



『アミパネルと階高の関係』

アミパネルでは耐力壁として使用する場合の横架材間の距離が決まっているため、使用する梁・桁（胴差）等の成（高さ）によって構造「階高」が決まってきます。

アミパネル使用の階高表

梁成 (mm)	2900版の階高 (mm)	2700版の階高 (mm)
105	2905	2705
120	2920	2720
150	2950	2750
180	2980	2780
210	3010	2810
240	3040	2840
270	3070	2870
300	3100	2900
330	3130	2930
360	3160	2960
390	3190	2990
420	3220	3020
450	3250	3050

※ここでの階高は下階横架材天端～上階横架材天端を示す

